

事務事業事後評価シート[平成28年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	保健福祉部健康増進課		■担当係	母子保健係
■評価事業名称	子育て支援事業			
■事業開始年度	平成3年度			
■評価事業コード	040200 - 052	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	01 子育てと医療・福祉の充実した明るく健やかなまちづくり		
	■基本施策	01 子育て環境の充実		
	■施策	06 母子の健康の確保及び増進		
■事業の類型	05 ソフト事業(任意)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に定めはあるが任意の自治事務			
■法令等の名称	母子保健、児童虐待の防止等に関する法律、子ども・子育て支援法			
■関連計画の名称	北上市こども・子育て支援事業計画、男女共同参画プラン、北上市健康づくりプラン			
■事業の目的と概要	正しい知識の普及と仲間づくりを勧めることで、妊娠、出産、育児が楽しいと感じられる。 両親学級、パパママ教室、育児学級、離乳食教室の開催			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成28年度事業計画	平成28年度事業量実績
01	子育て支援事業	妊婦とその家族・乳幼児の保護者とその家族	両親学級24回 ふれあいベビー教室6回 育児学級10回 離乳食教室12回	両親学級22回 延人数208人 追加教室1回 延人数16人 ふれあいベビー教室6回 延人数56人 育児学級10回 延人数165人 離乳食教室12回 延人数101人

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	備考
直接事業費	356	418	369	388	
人件費	6,642	6,654	10,053	9,301	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	6,998	7,072	10,422	9,689	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	指標の説明
01	参加のべ数	638人	504人	508人	484人	母親学級は参加延べ数、他の学級については保護者の参加延べ数。
02	開催回数	54回	51回	51回	51回	

事務事業事後評価シート[平成28年度事業]

03	育児が楽しいと感じる割合					パパママ学級受講者の(4か月児健診で育児が楽しいと答えた人数÷学級受講者数×100)H23パパママ学級休止のため指標なし
04	参加者1人当コスト	10,951円	14,031円	20,515円	20,018円	フルコスト÷参加延べ数
05	開催1回当コスト	129,592円	138,941円	204,352円	189,980円	フルコスト÷開催回数
06	両親学級夫の参加率	28.8%	18.0%			両親学級参加夫数/全初産婦数(男女共同参画指標)平成27年度から両親学級1回/月→前期コース、後期コースの2回/月実施に変更。内容変更に伴い指標算出できず(対象者、参加者を延べ数で把握しているため)

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

☐ A. 順調

☒ B. 概ね順調

☐ C. 遅れている

達成状況の分析

参加人数は減少しているが、育児に関する知識の普及や仲間づくりの場になっている。

問題点・課題等

核家族化や近所との付き合いの減少から、育児知識伝承の機会の減少や母の育児負担が大きくなっている。そのため、知識やスキル、夫婦で協力し合って育児していく必要性を学ぶ場が必要となっている。このような背景に合わせて事業内容の検討が必要。

1. 直接的な受益者の範囲

☐ 不特定多数に及ぶ

☐ 特定されるが多数に及ぶ

☒ 特定少数に限定される

2. 事業廃止の影響

☐ 大きな不利益やリスクが生じる

☒ ある程度の不利益やリスクが生じる

☐ 不利益やリスクは小さい

3. 国・県・民間との競合関係の有無

☐ 類似の事業はない

☒ 類似の事業はあるが競合はない

☐ 類似の事業があり競合する

4. 事業へのニーズの変化

☐ ニーズが高まっている

☒ ニーズは変わらない

☐ ニーズが低下している又は合致しない

5. 施策の改善需要度(市民意識調査)

☒ 順位が高い

☐ 順位が中程度

☐ 順位が低い

6. 施策の優先度(市民意識調査)

☒ 順位が高い

☐ 順位が中程度

☐ 順位が低い

7. 他市町村に比較しての優位性

☐ 先進的またはユニークな事業である

☒ 他と同程度の事業である

☐ 遅れている事業である

8. 実施主体の代替性

☒ 民間委託等の拡充は難しい

☐ 民間委託等の拡充が十分に可能

☐ 全部委託や実施主体の移行が可能

9. 経済性・効率性の向上

☐ 今以上の効率化や改善は難しい

☒ 効率化や改善を図ることは十分に可能

☐ 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

事業対象の実態に合わせた実施内容の検討が必要である。

■今後の方向性

☐ I. 拡充

☒ II. 継続

☐ III. 縮小

☐ IV. 廃止・休止

☐ V. 完了